

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	一人ひとりの尊厳を大切に、支えあう心を持ち安心して暮らせる社会づくりができる様に理念に基づいて支援している	
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	日々のカンファレンスを通じて利用者の支援を見直し、理念と照らし合わせ実践している	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	運営推進会議・家族会等を通じて理解していただけるよう働きかけている また、具現化した支援についても伝えている	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	職員から積極的に挨拶するように心掛けている	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	町内会の集会に参加したり、盆踊りや町内の行事には積極的に参加するようにしている	利用者が地域の子供と交流する機会が少ないため、これからの課題としたい。
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域住民からの相談等を受けている	運営推進会議や地域の行事参加等の中で積極的に地域の方々との交流を通し、出来ることを模索していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	パンフレット等を利用したり管理者からの話などで理解に努めている また自己評価を実施する中で具体的な取り組みを話し合っている		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回の開催の中で事業所の取り組みについて伝えている		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市の会議(年3回)に参加している		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	社内研修で外部講師を呼んで学んだり、社外研修に参加し学べるよう心掛けている		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内研修を行い必要な知識を学ぶ機会を設けるほか、スタッフ同士が話し合う機会を設け意識を高める様にしている		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には十分な説明を行い本人やご家族の気持ちを理解したうえで入居へつなげている、またご家族・本人の不安や疑問点があれば随時伺うようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者本人の意見や不満等を聞くことができる機会を都度設けており、そのための信頼関係の構築に向けた取り組みを行っている		本人の意向を聞きながら、運営推進会議等で外部の方と話せる機会を持てるよう支援していきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ご家族に宛てた手紙にて事業所における近況報告を行っている、来訪時には都度お伝えするとともに家族ノートを利用して相談・報告など行いご家族との情報共有に努めている		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議等にて、意見等を伺う機会を設けている また日常的に来訪の際などに意見を伺うように努めている 意見等が上がった際は速やかに運営責任者等へ報告し対応できる体制をとっている		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は日常的に職員より意見を汲み上げ運営に反映させている、特にスタッフノートを活用し普段から職員からの意見を集めている		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の外出などあらかじめ把握できている予定について入居者が普段と変わらぬ安心した生活を送ることができる様日勤者を多く配置するなど勤務の調整を行っている		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者への影響が必要最低限になるように異動の時期をずらすなどの配慮を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>上記23項目と同じ、特に家族に対しては相談の希望がある「その時」を逃さないよう相手の気持ちや都合に可能な限り合わせて相談を受けている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者を窓口として相談者の状況に合わせたサービスを利用できるための情報提供を行っている		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者本人が職員やほかの利用者や場の雰囲気に馴染めるよう必要に応じて自由に来訪してもらえるよう働きかけている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お互いの思いを伝えあい話し合えるような機会を日常的に設けている、また、得意な事や力を発揮できる場面では職員は教えてもらいながら共に支えあう関係づくりを築いている		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との連絡ノートの活用や来訪時に話し合う時間を設けたりしながらご家族の本人への思いや心配事などを共有し、本人と一緒に支えてゆく関係づくりをしている 事業所での行事の際には家族にも参加してもらい本と共に過ごす機会を設けている (食事会・忘年会など)		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族・利用者本人それぞれの立場における思いやお互いへの思いを伺いながら双方の理解を深められるよう働きかけている 家族との連絡ノートやご本人との対話ノートなどを活用している		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日頃から馴染みの人や場所などについての話を伺うようにしており随時ご家族に相談・報告しながら可能な限り関係が継続出来るよう努めている(墓参りや、馴染みの人への電話・手紙、友人の来訪・外出など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員間で情報を共有・カンファレンスを行い随時利用者同士の関係調整に努めている。また、利用者同士の会話の際必要に応じて相互の理解を深められるように介入している		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了で関係が切れるのでなくいつでも来訪していただけるよう働きかけている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を用いて利用者本人の思いや希望を把握するよう努め本人の希望・思いをできる限り実現している 思いを表現するのが困難な方は本人の言動や表情から思いを探れるよう努めている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人・家族から情報提供をしてもらいこれまでの生活を知り今後の生活支援に活かしている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のカンファレンスにおいて日常生活状況を把握するよう努めている、それらを担当者が集約してアセスメントをし総合的な情報把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常的にカンファレンスを行いご家族とも話し合いながら介護計画の作成を行っている、話し合いに本人が参加することは少ないが、可能な限り本人の思いを把握するよう努め自分だったらどうしてほしいかを考えながら作成している 計画の内容については本人がわかりやすいように伝えるようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直すよう努めている、変化が生じた場合は職員間で情報を共有するためのノートやカンファレンスノートを活用し変化に対応している		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の申し送りや職員間においてケアの実践や結果・気づき・工夫を共有しているが新しい計画への作成・見直しには迅速な対応はできていない		生活記録の介護欄を今まで以上に活用し、利用者の変化や職員の気づきをその都度記入し、介護計画への見直しつなげていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に町内会の区長が参加してくれるようになった 現在、ボランティアは受けておらず警察や消防等との具体的な協働も行っていない		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、他のサービスを利用している利用者はいない		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域運営推進会議への参加を通じて入居者の生活の様子を伝え、情報の共有を行っている		本人の意向や必要性に応じた取り組みをどのように展開していくか検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医への意向を確認し、本人・家族の希望に合わせて適切な医療を受けられるよう努めている かかりつけ医は隔週に1度往診を行っており、加えて体調変化が見られた際には必要に応じて電話相談をし、本人の状況により往診をしている		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医が認知症に関する専門知識を有しており必要に応じた支援を受けられる体制が整っている		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護師を配置している 必要に応じて他事業所の看護職員あるいは連携医療機関の看護職員と連携をとっている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	かかりつけ医からの情報提供や本人が認知症であることの実状を受診機関に伝えながら迅速な早期退院に向けた取り組みを行っている		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居の契約時、「重度化生活支援に関する指針」について説明を行い理解を得ている また、本人の状態の変化に合わせて本人を中心として家族・かかりつけ医・職員間で話し合いを都度行い、方針を確認し共有している		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期を迎えた入居者のケアにあたる際、事業所として「終末期生活支援に関する基本的考え方」を職員全員確認し、ケアの統一を図っている また、今後想定される本人の状態変化にたいし医療職と情報共有しケアにあたっている 本人の状態に合わせ他事業所に移動するなど本人にとって最適な生活環境を提供できる体制も整えている		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>生活環境が変化するなかでのロケーションダメージが最小のものとなるよう事前に十分な話し合いと情報の引き継ぎを行っている</p> <p>センター方式に情報をまとめておくことで関係者間での情報共有が図れ、本人の今までの生活が継続出来るようにしている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報保護を厳守しており書類の取り扱いには充分配慮している</p> <p>一人ひとりの尊厳を守ることを第一とし常に相手の立場に立ち、相手を傷つけたりは</p> <p>ずかしめるような声かけ・対応はしないよう配慮している</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常的に利用者本人が思いや希望について表出できるよう相手の話を丁寧に聞くようにしておりケアプランにも反映させている</p> <p>一人ひとりのわかる・できる力に焦点をあてた言葉の選び方や聞き方の工夫をしている</p> <p>思いの表出や自己決定が困難な状態でも本人の言動や表情などから意向を探り、決定する際には必ず本人へ確認をしている</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>朝の申し送りにて夜間の状態をある程度把握し、本人の思いに沿った支援が出来るよう毎日職員間でその日の具体的な支援について話し合い実践に取り組んでいる</p> <p>本人に変化があった際には柔軟な対応ができるよう情報共有を図り本人がどのようにしたいのかを探るようにしている</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意向を確認しながら行きたい時に行けるようにし、本人がそうしたいことに気づいていないときやタイミングが合わないときはご家族に協力を依頼するなど支援につなげている</p> <p>整髪や服の汚れ・適切に服を着るなど自分で行う事が難しい方へはさりげない支援を行いながら本人らしいおしゃれが出来るよう支援している</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メッセージボードを活用し、献立をわかりやすく紹介し食事への意欲につなげている</p> <p>職員は利用者と一緒に食事をし一人ひとりに合った食事支援ができるように配慮している(どんな味か、食材は何か、食事量の調整や食べられないものの代替品への対応など)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの好みに合わせて様々な種類のお菓子を用意している 手作りする際は利用者に意見を求め味の好みなどを聞いて作成している 日常の中で食事の献立やカタログなど見て本人の嗜好について聞く機会を設けたり、食べたいものを一緒に買いに行くなどの支援を行っている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	必要に応じて排泄パターン・リズムの把握をし、本人のリズムに合わせた誘導を行っている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯やいつ入るかなど本人の希望に合わせて支援している 希望があったときはできる限り迅速に対応している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	馴染みの寝具類を用意してもらい本人が心地よく眠れるようにしている 寝付けなときは本人の状況に合わせてナイトミールを用意したり声掛けを行い休息へつながるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の力を見極めてそれに応じた役割活動が出来るよう配慮している(洗濯干しやたたみもの、掃除機かけや玄関掃除など) ドライブや買い物など外へ出る機会を設け気分転換を図れるよう支援している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力を見極めながら実際に使う場面がほとんどない方でも自分で所持することを支援している 買い物などの場面では適切に使えるよう支援している		お金を管理するのが難しい方に対する支援のあり方について、保管場所や所持金の額などご家族と連携を取りながら本人のプライバシーに配慮しながら確認している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の意向やその日の体調を考慮しながら散歩や美容室への外出支援を行っている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者数人とドライブに出かけたりご家族にも参加していただき花見に出かけるなどご家族の協力を仰ぎお墓参りに出るなど		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の意向を確認しながら支援している 電話の際は事前に情報提供して先方から掛けていただいたり、予め本人の意向をお伝えしておくなど円滑なやりとりが出来るよう配慮している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	外部の方がいつ来訪してもよいよう常に準備している 来訪時は和室や居間でくつろげるよう配慮している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	社内研修や外部研修に参加し職員全員が正しい知識を持てるようにしており、実践のケアで取り組んでいる		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中の時間帯は玄関を開放しており自由に出入りできるようになっている 夜間帯は防犯上の理由により施錠している 居室に本人の承諾なしに鍵をかけることはしていない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	過度な見守りや様子観察にならぬよう配慮しながら利用者が安全な状態・様子であるかさりげなく把握するよう努めている 夜間はトイレに起きた時の様子や居室内の物音などで安全を確認している(生活パターンを職員一人ひとりが把握しそれに合わせて支援している)		本人の希望で自室に鍵を掛けている方へのプライバシーを充分配慮したうえでの安全確認の方法を検討しており、現在は本人の了解の上で合鍵を預けてもらい緊急時への対応が出来るようにしている
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬剤や刃物などの危険物は見守りにて安全の確保を行っている、夜間帯の見守りできないときのみ鍵をかけたり職員以外手の届かないところに保管している どういものが入居者の安全をおびやかすのか、注意が必要になってくるのかを常に考えながらリスクマネジメントをしている		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者の状態の変化に合わせてどのようなリスクが高くなるか、今後の対応についてを職員間で随時話し合いカンファレンスを行っている、ケアプランへ反映もさせている。 マニュアルに随時目を通し知識を得るようにしている		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の状態の変化が見られた時に職員間でどのような事故が起こりやすくなるかを話し合い、その際の対応についても話し合い確認している		定期的な訓練は現在行っていないため今後事業所として取り組んでゆきたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災・避難訓練を年2回定期的に行っており職員全員が緊急時の対応出来るようにしている 地域運営推進会議にて随時報告を行い地域住民の方達の協力が得られるよう働きかけている		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりの持つリスクを考えたいうえでの対応について、利用者本人の生活に影響しないよう配慮することを前提に考え、ケアプランへ反映させており、ご家族に説明し了解を得るようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者との関わりの中で「いつもとは違う」状況・状態に気付いた場合にまず職員間で情報を共有すると共に、必要に応じて医療職との連携をとっている		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの疾患についての理解を深めるとともに、服薬カードや本などを参考にし、薬効の理解に努めている。一人ひとりの状況に合わせて、利用者にわかりやすく説明したり本人からの話で症状の変化を確認するなどの支援を行っている		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一人ひとりの原因・影響を理解し、医師や看護師と連携し対応している 予防のために日頃から飲食物の工夫をしたり、散歩など体を動かせるよう働きかけを行っている		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔内清掃を保持できるよう、一人ひとりのできる力に応じて声掛けに努めている		毎日の習慣としては行えていないため職員の意識を高めた働きかけを行ってゆきたい、定期的な歯科検診を取り入れてゆきたい
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要に応じて水分・食事量のチェックを行い、医療職へつなげたりしている 状況に応じて随時補食や水分を取れるようにしており、その際は一人ひとりの状態・気分に合わせて自然な形で摂取できる工夫をしている		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルがあり職員はそれに沿った対応を行っている 日常的に手洗いうがいは全職員実施しており、来訪客にも協力してもらっている インフルエンザの流行時期には予防接種を利用者・職員全員が行っている		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	マニュアルに沿って対応しており、調理器具は定期的に消毒を行っている 食材について、賞味期限内でも食材が傷んでいないか使う前に必ず確認を行い早めに消費するよう努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>花を飾る、園芸用の小物を置くなどして親しみやすい雰囲気になるよう工夫している</p> <p>また、玄関の門を撤去したことによりより一層開放的になり来訪しやすい雰囲気となっている</p> <p>冬期間はこまめに除雪を行い出入りしやすい空間づくりに努めている</p>	<p>玄関に入った正面がトイレになっているため来客者や利用者が不快に感じないように細目な清掃を心掛けている</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>隣の空間にいる他利用者の声や職員の声がそのまま聞こえてしまうことがある</p> <p>居間には生活感が出るような様々な小物を配置し季節に合わせた植物や節句のものを置くようにしている</p>	<p>台所と浴室につながる洗面所が隣接しており利用者や職員の声が気になる時があり、利用者が不快に感じてしまわぬよう話し声などに注意している</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間のほかに和室や縁側、廊下には椅子やソファを設置しており思い思いに過ごせる空間がある</p> <p>必要に応じて居間の模様替えを行っており、利用者一人ひとりが自分の空間を確保できるようになっている</p>	
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室のものは全て利用者の馴染みの物を持ち込んでもらっている</p> <p>家具だけでなく本人にとって安心でき落ち着ける要素のあるものについても持ち込んでもらうようにしている</p>	
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>必要に応じて温度調整に努めている</p> <p>湿度を保つため夜間は居室内に濡れたタオルをかけるようにしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる 利用者の2 / 3くらい
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 利用者の2 / 3くらい
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている 利用者の2 / 3くらい
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 利用者の1 / 3くらい
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている 利用者の2 / 3くらい
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている 利用者の2 / 3くらい
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています 家族の2 / 3くらい
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 数日に1回程度



. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	少しずつ増えている
98	職員は、生き生きと働いている	職員の2 / 3くらいが
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	利用者の2 / 3くらいが
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	家族等の2 / 3くらいが

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)